

平成18年4月10日

平成 17 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 角谷 常子

最終学歴	1990年3月京都大学大学院文学研究東洋史学専攻博士課程単位取得満期退学
取得学位	文学博士
所属学会	東洋史研究会、東方学会、日本秦漢史学会、木簡学会、史学研究会
現在の専門分野	中国古代史
研究課題	中国古代における意思表示手段とその社会的背景、中国古代における親族関係とその社会的・政治的背景

【研究上の特記事項】

2003年～2005年度科学研究費基盤研究C「張家山漢簡『算数書』の注釈及び数学史上の意義の研究」（研究代表者 大阪産業大学教授 大川 俊隆）分担研究者

【教育上の特記事項】

【社会的活動】

日本秦漢史学会理事（2005年度～）、木簡学会役員（2005年度～）、歴史講座（日本セカンドライフ協会）講演2回（大阪市）、せいぶ市民カレッジ（奈良大学文化講座）講演1回（奈良市）

【学内活動】（学内職歴を含む）

全学教務委員、国際交流委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 2 3 4 5				
(学術論文) 漢文景期小考 2 3 4 5	単	2005年12月	『奈良史学』23号	黄老思想と消極策の時代とされる前漢初期の再考の必要性を論じたもの。
(学会発表) 漢代における石刻流行の意義 トラウマからの栄光—対匈奴戦争 3 4 5	単 単	2005年10月 2005年12月	古代東アジアの石刻資料と情報伝達（愛媛大学「資料学」研究会シンポジウム） シルクロードなら国際シンポジウム2005	後漢後半の立石の流行が単なる過礼現象ではなく、社会的要請によるものであることを論じた。 武帝の華々しい対外戦争の前に、西方や北方との交流及び情報収集があったことを述べた。
(その他) 2 3 4 5				